**日本各地での鉄砲生産**

1543年にポルトガルから鉄砲が伝来して以来、鉄砲の生産は急速に広まった。その後10年で、日本の各地に銃砲製造拠点ができた。その中心は、国産化の始まりの地である九州と、近畿地方（大阪・京都周辺）である。この新しい武器には、刀工たちの高度な金属加工技術が生かされ、多くの鍛治場が設立された。

国産火縄銃は輸入品を模倣したものであったが、やがてバリエーションや改良が加えられ、各地域で独自の発展を遂げた。

**薩摩（鹿児島県）**

1543年、種子島の領主がポルトガル人商人から2丁の火縄銃を入手すると、地元の刀工、八板金兵衛（1502-1570）にその模造品を作るよう指示した。1年後、八板は種子島に鉄砲鍛冶場を設立した。八板はポルトガル人探検家の一人と娘の若狭を結婚させ、その見返りとして鉄砲製造の重要な秘伝を授かったと言われている。

薩摩鉄砲は細長く、内部にカラクリのバネを取り付け、その仕組みはほとんど鉄でできている。全体的にミニマルなデザインで、トリガーガードや槊杖を収納する部分はないが、薩摩の武器には火ばさみの刻印や紅がら塗りの銃床など、装飾的な要素を持つものもある。

**根来（和歌山県）**

根来鉄砲隊は、日本最初の鉄砲名人、津田監物（1499-1568）によって創設された。津田は現在の和歌山県にある根来寺の僧の子孫で、鉄砲の玄関口であった種子島に住んでいたこともある。

1543年、津田は種子島藩主がポルトガル人探検家から入手した2本のポルトガル製火縄銃のうちの1本を購入した。津田はこの武器を根来に持ち帰り、刀匠を雇い、ヨーロッパの武器を再現した。津田の鉄砲製造は、やがて大阪近郊の堺で急成長した鉄砲製造所に押され気味になったが、根来では砲術の訓練と一部の製造が根来で続けられた。

根来銃は大口径のものが多く、銃口は広く、銃身は八角形で、外側に真鍮製のカラクリが取り付けられている。日本における火縄銃の戦いの初期には、これらの武器は非常に需要があったが、現在ではほとんど残っていない。

**阿波（徳島県）**

阿波藩では、長大な口径の銃身を持つ中口径の武器が多く生産された。カラクリは外側にU字型のバネを取り付けた「平からくり」と呼ばれるシンプルな構造で、人気があった。

**堺（大阪府）**

火縄銃の伝来は、大阪・堺の商人、橘屋又三郎（生没年不詳）のような進取の気性に富んだ実業家にチャンスをもたらした。橘屋の銃製造所は日本二大鉄砲製造所となり、橘屋は「鉄砲又」と呼ばれるようになった。橘屋の鉄砲職人とその子孫は、主に徳川幕府（1603-1867）のために約300年にわたり武器を生産した。

堺の火縄銃は、柔らかい鉄製の長い八角形の銃身が特徴である。銃身は比較的丸みを帯び、銃口は細く、真鍮製のカラクリは外側にU字型にバネが取り付けられている。

堺の鉄砲は、金属を嵌め込んだ銃床、彫刻を施したカラクリのプレートや銃身など、精巧な装飾が施されたものが多い。堺の鉄砲鍛冶は、大名筒として知られる華麗で高価な武器のほとんどを製造していた。

**備前（岡山県）**

江戸時代（1603-1867）末期、備前藩の日本海側で、刀工たちが鉄砲鍛冶を創業した。彼らが作る、飾り気がなく、耐久性に優れた火縄銃は、展示用ではなく、実戦用の武器を必要とする砲撃手の間で人気を博した。

**国友・日野（滋賀県）**

種子島に初めて鉄砲が伝来して間もなく、島の領主は足利義晴（1511-1550）に鉄砲を献上し、義晴は国友村の鍛冶屋に鉄砲の複製を命じるとともに、その鉄砲を送ったという。

国友の鉄砲鍛冶は、堺と並ぶ日本二大鉄砲鍛冶となった。国友の鉄砲製造所は、16世紀の内戦から徳川幕府（1603-1867）までの400年にわたり、火縄銃を製造した。最盛期には1,000人以上の職人が働いていたという。現在残っている日本の火縄銃の約3分の1は国友で生産されたものと言われている。

国友の鉄砲職人や隣町の日野の鉄砲職人は、時代に合わせて銃身やカラクリのデザインを変えながら、あらゆる種類の鉄砲を製造した。国友の鉄砲は、装飾を排したシンプルで使いやすいものが多い。 銃身は年々細く軽くなり、カラクリにはネジなどの新しい部品が導入されるなど、実用的な工夫が凝らされていたのも国友の特徴だった。

**仙台（宮城県）**

17世紀、徳川幕府が火縄銃の製造を制限し始めると、一部の藩は独自に火縄銃の製造所を密かに設立した。日本の北部に位置する裕福な藩である仙台の大名は国友に職人を密かに派遣し、鉄砲製造を学ばせた。そして、仙台領内に密かに鉄砲製造所を設立し、19世紀まで生産を続けた。

仙台の鉄砲は、実用的で信頼性が高い。銃身や照準器のデザインも多様で、外側にねじりバネ（げきからくり）がついているのが一般的である。装飾は主に木製銃床に多く、瓢箪、葡萄、葛などの花模様が彫られている。